

第3章 第2次推進計画の評価と課題

1 歯と口腔の健康づくりに関する取組状況

第2次推進計画では、策定時に設定した29の指標を達成するため、関係者と連携し、次のような施策に重点的に取り組んできました。

- 事業所等に対する歯周病予防に関する出前講座や、各種健康関連イベント等で歯科保健指導を実施し、歯科口腔保健に関する正しい知識の普及啓発に取り組むとともに、定期的に歯科検診を受けることを推進しました。
- 「石川県フッ化物洗口マニュアル」を作成し、保育所・認定こども園等におけるフッ化物洗口の導入支援を行い、こどものむし歯予防対策を推進しました。
- 障害者施設等で歯科検診や歯科保健指導を行い、定期的に歯科検診や歯科医療を受けることが困難な人に対する歯科口腔保健を推進しました。
- 市町の歯科保健担当者向けの研修会や高齢者施設等における口腔ケア従事者に対する研修会を実施し、歯と口腔の健康づくりを推進するために必要な社会環境の整備に努めました。
- 歯科医師会や歯科衛生士会等の関係機関や市町、職場、学校等が連携し、歯と口腔の健康の保持・増進を図るための取組を推進しました。

2 目標達成状況の評価

目標達成状況の評価するため、県民健康・栄養調査等の結果を分析し、ベースライン値との比較や評価を行いました。

第2次推進計画における具体的指標29項目のうち、目標を達成したもの（A評価）が17項目、目標に達していないが順調に改善したもの（B評価）が4項目、やや改善した

もの（C評価）が3項目、横ばい・悪化したもの（D評価）が4項目、評価困難（E評価）が1項目であり、24項目に改善が認められました（表1・2）。

表1 第2次推進計画における目標達成状況

評価区分	基準	数
A 目標達成	目標値を達成	17
B 順調に改善	目標値との差の50%以上の改善	4
C やや改善	目標値との差の50%未満の改善	3
D 横ばい・悪化	横ばい、または策定時より悪化	4
E 評価困難	最終評価が困難	1
目標達成又は改善（A+B+C/計）		24/29

3 各指標の達成状況

こどものむし歯は経年的に減少していますが、県内でも地域差があり、特に学齢期においては、全国よりむし歯が多くなっています。

成人期においては、歯周炎を有する者の割合は、40歳代等では改善している傾向があり、未処置歯を有する者の割合や歯の喪失状況についても改善が認められるものの、8020達成者の割合については、県内でも地域差があり、能登地区では金沢市・石川中央と比較し、約20%低くなっています。

歯と口腔の健康に関する認知度についての項目は、いずれも改善しているものの、目標値を達成しているものは認められませんでした。

口腔機能の維持・向上については、ゆっくりよく噛んで食事をしている人の割合が増加し、60歳代の咀嚼良好者の割合も増加したものの、80歳代以上では悪化し、引き続き歯科疾患の有病状況の改善を図ること等が課題となっています。

配慮が必要な分野における目標値については、施設基準の引き上げ等による影響により、

在宅療養支援歯科診療所の数が減少しました。また、令和3年度の介護報酬改定により、口腔衛生管理体制加算が基本サービスとして義務化（令和5年度までは努力義務）され、加算が廃止されたため、最終評価が困難になりました。

4 今後の課題

こどものむし歯の減少や成人の歯周炎を有する者の割合の減少、歯の喪失状況の改善など、歯科疾患の有病状況は改善していますが、全国には及ばないものが多く、県内でも地域差が認められる状況です。

歯科検診の実施状況については、歯周病検診実施市町や妊婦歯科健診実施市町が全市町となり、検診の実施体制は整ってきましたが、特に歯周病検診については受診率が低く、受診率向上等が課題となっています。

また、国が定めた「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項（第2次）」において、フッ化物応用に関する項目が複数追加されましたが（参考指標を含む）、本県でも、保育所・認定こども園等に対するフッ化物洗口の導入支援を行っていることから、事業の効果を検証する上でも、指標として設定することが重要です。

国の基本的事項を参考に、第2次推進計画の最終評価結果を踏まえ、目標値の見直しや新たな指標の設定を行い、ライフステージに応じた切れ目のない施策を展開することにより、歯と口腔の健康づくりに関する正しい知識の普及啓発を図るとともに、地域差の改善を目指します。

表2 第2次推進計画における各指標の達成状況

基本方針	目標項目	ベースライン値 (H28)	現状値 (R4)	目標値 (R5)	評価	データソース		
歯科疾患の予防	乳幼児期	3歳児でむし歯のない者の割合の増加	86.5%	91.6%	90%	A	地域保健・健康増進事業報告	
	学齢期	12歳児の一人平均むし歯数の減少	1.0歯 (H29)	0.6歯	0.8歯	A	学校保健統計調査	
		12歳児でむし歯のない者の割合の増加	58.4%	72.2%	65%	A		
		10歳代(15~19歳)における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	24.7%	9.9%	20%	A	県民健康・栄養調査	
	成人期高齢期	進行した歯周炎(4mm以上の歯周ポケット)を有する者の割合の減少	40歳代	58.3%	46.8%	52%	A	市町歯周病検診結果 (H28は事業所検診の結果を含む)
			50歳代	63.3%	58.4%	57%	B	
			60歳代	65.6%	58.6%	59%	A	
		未処置歯を有する者の割合の減少	40歳	40.9%	32.1%	36%	A	
			60歳	37.0%	27.6%	33%	A	
		40歳で喪失歯のない者の割合の増加	81.6%	86.2%	85%	A	県民健康・栄養調査	
		60歳で24歯以上自分の歯を有する者の割合の増加	51.6%	63.0%	60%	A		
		80歳で20歯以上自分の歯を有する者の割合の割合	26.1%	35.2%	35%	A		
		8020運動の意味を知っている人の割合の増加※	46.3%	52.4%	60%	C		
		糖尿病と歯周病の関連を知っている人の割合の増加※	40.0%	47.4%	50%	B		
		喫煙と歯周病の関連を知っている人の割合の増加※	41.4%	44.2%	50%	C		
		口腔清掃状態と肺炎の関連を知っている人の割合の増加※	41.6%	48.8%	50%	B		
	歯や口腔に関する悩みをもつ人の割合の減少※	49.7%	52.4%	45%	D			
	過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加※	47.9%	49.9%	52%	C			
	歯周病検診実施市町数	16市町 (H29)	全市町 (R5)	全市町	A	健康推進課調べ		
口腔機能の維持・向上	ゆっくりよく噛んで食事をしている人の割合	50.2%	55.1%	増加	A	県民健康・栄養調査		
	咀嚼良好者の割合の増加	60歳代	66.7%	71.5%	73%		B	
		80歳代以上	57.1%	49.4%	63%		D	
配慮が必要な分野	妊婦歯科健診実施市町数	16市町 (H29)	全市町 (R5)	全市町	A	健康推進課調べ		
	障害者支援施設及び障害児入所施設での定期的な歯科検診実施率の増加	78.8% (H29)	90.6% (R5)	90%	A	障害保健福祉課・健康推進課調べ		
	在宅療養支援歯科診療所数	57診療所 (H29)	40診療所 (R5)	増加	D	東海北陸厚生局ホームページ施設基準の届出受理状況		
	口腔衛生管理体制加算を算定している介護保険施設の割合	37.4% (H29)	-	増加	E	長寿社会課調べ		
	日本糖尿病協会歯科医師登録医の数	41名 (H29)	30名 (R5)	増加	D	日本糖尿病協会ホームページ		
	がん診療連携登録歯科医の数	101名 (H29)	126名 (R5)	増加	A	国立がん研究センターがん情報サービスホームページ		
社会環境の整備	歯科口腔保健の推進に関する条例または基本的事項を制定している市町数	18市町 (R29)	全市町	増加	A	健康推進課調べ		

※20歳以上